

## 明日という日を信じて

寄稿

## 歌い続けるパリンカ

合唱団パリンカ 団長 齋藤 栄一

パリンカは、1990年東混桂冠指揮者・田中信昭氏の指導を受けてスタート、団名は創立年の全日本合唱コンクール課題曲からつけました。仙台を拠点に活動しています。東日本大震災ではほとんどのメンバーが被災し、復旧復興に努めふたたび集い歌いあえるようになりました。

あえて「男声合唱団」と名乗らないことには、男声に限らず歌いたい人が集まってほしいとの思いが込められています。女性メンバーも含め現在50名在籍しています。昨年6月、コロナ禍のなか、感染対策マニュアルを作成し、Palinka28(創団30周年記念 合唱団Palinka第28回定期演奏会)の開催に漕ぎつけました。さらに11月には第74回全日本合唱コンクール全国大会・同声合唱の部に出場し、**銀賞**を獲得しました。

公式サイト：<http://palinka.masa-mune.jp/>

指揮者の千葉敏行氏は、2020年4月facebookに公開グループ【ポストコロナの合唱活動を考えよう】を立ち上げ、管理人としてさまざまな情報を発信しています。活動の詳細は昨年6月筆者が出版した『**男声合唱は、いま！多田武彦先生追悼集**』(Amazon)に掲載しています。

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/B096X1M5XQ>

## 聴衆を楽しませるおかあさんコーラス

コロナ禍で中止された第44回全日本おかあさんコーラス全国大会は、昨年12月からオンラインフェスティバルで開催されています。参加50団体を第一部から第四部まで4つにわけ、5人の講師がそれぞれ講評をする形で編集されたみごとな番組となっています。全日本合唱連盟の公式YouTubeで無料配信されています。

<https://jcanet.or.jp/event/mother/mother-online.htm>

「**おかあさんコーラス**」といわれても困る女性もいると思いますが、それはとりあえず置いて、女性ならではの振り付けでステージを飾る団がいくつもあります。聴衆としては、きれいで楽しいし、何より歌っている人たちが一番楽しんでいることが伝わってくるのがうれしいです。歌と振り付け、両立させるのはなかなか難しい問題ですが、まちがっても男声合唱団では真似ができないものです。

「おとうさんコーラス」はすでに「男声合唱」と変わりました。そろそろ「女声合唱」と変えてもいいのではないのでしょうか。



東日本大震災後、音楽は灯となり合唱は人の力となりました。そして数多くの歌が生まれました。合唱団パリンカ創団30周年記念コンサートを催すにあたり、この10年を歌で振り返り、未来を模索するはずだったパリンカ。コロナ禍で全く変わってしまいました。練習の自粛と再開の繰り返しで参加団員は半減、日々の健康管理と5割増しの感染対策を行って昨年の6月にやっと開催に漕ぎつけました。

全日本男声合唱フェスティバルの選曲はその定期演奏会から、最初の曲は小田和正さんが震災後に被災地に思いを寄せて作られたもので「**その日が来るまで**」。青春時代を仙台で過ごした小田和正さんの作品を男声合唱で演奏したいという願いを「The Premiere Vol.4」で出会った西下航平さんに編曲していただいた。

2曲目は「**あすという日が**」。震災前から存在していたこの合唱曲は、明日を信じて生きていこうという素直で一筋の思いが込められています。震災直後にいち早く被災者支援の歌声を上げた仙台市立八軒中学校の合唱に避難所にいる皆さんがどれだけ感動し勇気もらったか想像するだけで身震いがします。今回作曲者の八木澤教司さんのお許しをいただき、内藤淳一さんにソプラノ独奏が入るドラマチックな男声版に編曲していただきました。

後日、作詞をした山本瓊子さんから、「男声合唱は本当に素敵でソプラノが又、素晴らしく心をえぐられ、かつ深ささる思いでした。この感覚はどこから来るのだろうと考えました。そしてオリジナルとは別のこの感動は、編曲の見事さにあると強く信じました」とお寄せいただきました。

(写真は、昨年の30周年記念演奏会の集合写真)